

パリからでているニューヨークタイムス国際版の天気図は比較的大きく、製版もよいし天気の実現もよい。図の陸地上に国境がはいっているのもめずらしい。

### オランダ

ロッテルダムからでているニーエ・ロッテルダムセ・コラントという新聞には、本格的な天気図がのっている。観測値の表にも、天気・風向風速・最低気温・降水量がヨーロッパ各地についてのせてある。デ・テレグラフには、大きな天気図があり、天気の実現も一般人向きに独特の絵図化のくふうがしてある。

### その他の国

気象学の発達程度からいうと、オーストリアやスイスの新聞にはりっぱな天気図がのってそうであるが、中央紙がないせいか、さっぱりよいものがない。あるいはドイツの中央紙がこれらの国の中央紙をかねているのかも知れない。

イタリーのイル・ジョルノは、私がみたうちでは唯一の天気地図がのっている新聞である。しかし、天気でイタリアを3階級に地域区分してあるに過ぎない。

### 3. 予報文と天気の局地性

私が新聞の天気欄をいろいろな国について集めている大きな目的は、実は、「天気予報がどの程度の地域単位ごとにでているか」を知りたいためである。日本では、地方版の新聞には、一県を3地域あるいは4地域にもわけて、天気予報がでていることもめずらしくない。これは非常にこまかな局地天気の予報である。もちろんこういう予報が可能なのは、気象台・測候所などの密度や気象事業の内容に左右されることであるが、他の諸国ではどうなっているかが知りたい。また、気象台・測候所などが予報をやって、新聞という窓口を通じて、どのよう

に、広く公表され、地域ごとの人間生活にいかされていくかも、興味がある。

さて、こういう目的で予報文を読んでみると、ヨーロッパ諸国の新聞に書いてある予報文はいかにも大ざっぱである。ほとんどの新聞が地域を指定していない。地方紙ならば、当然その地方のものであろうが、いわゆる中央紙でもひとつの国を細分しているのは非常に少ない。面積だけで比較すると、オランダが近畿地方くらい、スイスが九州くらい、オーストリアが近畿・中国・四国をあわせてくらいである。日本では例えば長崎県の中だけでも3地域にわかれていることを考えるとずいぶんな違いである。

この点からも、先にあげたイギリスの3新聞、ディリーテレグラフ、タイムス、ガーディアンはこまかい。日によって、つまりその日の天気によって違うらしいが、イギリス（アイルランドとスコットランドを含めて）を6ないし10地域にわけ、別に付近の海域を1~2地域にわけて予報文がかいてある。しかし、面積からいうと、それらはわが国の近畿地方・中国地方……といった地方毎くらいの広さで、わが国のそれに比較すれば、問題にならないあらさである。

ドイツでは南ドイツ新聞が、南バイエルン・アルプス地方・北バイエルン地方・ラインマイン地方・海岸地域と5地方にわけて書いており、ビルトという写真新聞がやはり西ドイツの地方の予報を書いている。しかし、これもやはり、わが国の地方ごとくらいの広さである。

このような事実には、わが国とヨーロッパ諸国の地形や、天気変化の差ばかりでなく、気象事業や、新聞社の機能などいろいろの関係があって、ここで性急な結論はさけたいと思う。しかし、今後も、よく検討されるべき問題であることは確かである。

### 関西支部だより

10月の四国地区の月例会は26日に高松地方気象台において「瀬戸内海の霧」について行なった。

題目：瀬戸内海の霧

- 1) 瀬戸内海全般及び播磨灘の霧について  
神戸海洋気象台 平沢 健造
- 2) 備讃瀬戸の霧について  
高松地方気象台 菊田 一郎
- 3) 愛媛県の霧について  
松山地方気象台 太田 盛三  
大成 公道

以上の瀬戸内海の霧について、霧発生の予報法の現状と、発生機構上の問題点について討議した。

### 訂正

Vol, 9 No 12. 「東京における降水日数から見た太陰暦上の特異日と季節の分類について」  
p. 422

第2表 季界日一覧表中

季節番号の1行目14を15に訂正、

15行目の次に15を加える、

日付の14行目の次に1月4~5日を加える、  
たての線に、番号14と15のあいだによこ線のしるしをつける。

p. 422. 右欄下10行目14を15に訂正。